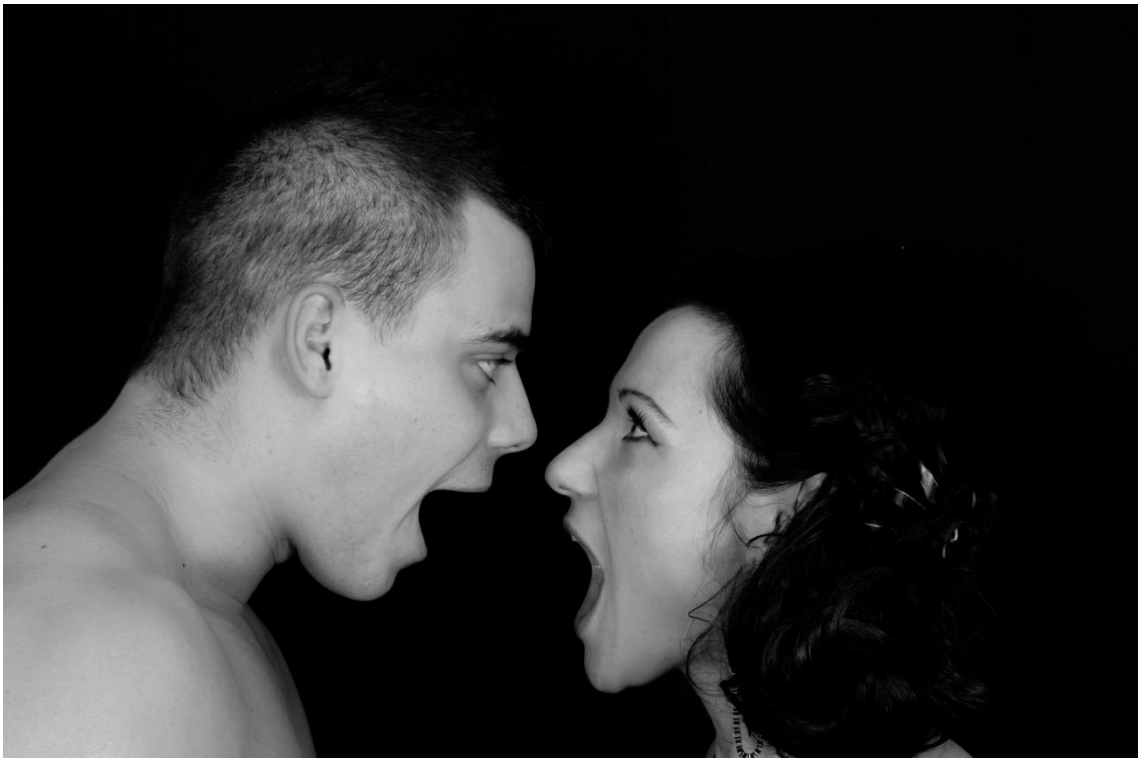
■私と仕事、どっちが大事なの！

修正：　2019.01.01

投稿：　2019.01.01



●私と仕事、どっちが大事なの！①

毎日、何かを続けるって、大変ですね。

更新を１日も欠かさない人に、頭が下がります。

//----------

先日、ニュースで、
「熟年離婚」が取り上げられていました。

40 歳を過ぎて、人生の折り返し地点も通過したあたりで、
妻からいきなり**「離婚」**を叩きつけられるとのことです。

これまで二十数年、何の問題もなく、仲が悪いということもなく、
それらしくやってきたつもりなのに、ある日、突然、
「もう嫌、離婚して！」と一方的に言われるわけですから、
夫からすると、まったく寝耳に水でありましょう。

夫「えっ、なんで！？
　　俺の何がいけなかったんだ！？（ °Д° ）」
と詰め寄っても、
妻「もうあなたとは、
　　話し合うつもりもありません！（; ・`д･´）」
の一点張りで、ただただ離婚話を押し付けられるばかりです。

ニュースでは、「男は外に出て仕事、女は家にこもって家事・育児」
という夫の固定観念が妻にとってはストレスの種で、
これが積もり積もって離婚の原因になった、と紹介されておりました。

子供がまだ幼いうちは、そう簡単に離婚もできませんから、
妻も家事・育児に徹し、仕方なく夫を支えるわけですが、

やがて子供も独り立ちし家から出ていくと、
夫婦を繋ぎ合わせていた要素も消えるわけですから、
「もう我慢しなくていい」とばかりに熟年離婚するのだそうです。

確かに人間関係である以上、相手に対して少なからず
不満は出てくるものでしょう。だからこそ、不満の兆候を察し、
その都度、相互に理解を深めていく姿勢が必要なのではないでしょうか。

そうであるならば、その不満の兆候は、
どのように察していけばいいのでしょうか？

（続）

//==========//

●私と仕事、どっちが大事なの！②

40 歳を過ぎて、突然、妻から離婚を突きつけられる、
「熟年離婚」について取り上げました。

夫婦とは言っても人間関係である以上、
相手に対して何らかの不満は出てくるもので、
健全な関係を保ち続けたいのであれば、
その都度、丁寧に話し合うことが求められます。

そのためにも、日々日頃から
相手を気にかけなければなりません(**お互いに**)。

結婚した当初なら、意識しなくとも、
自然と相手を気にかけてしまうもので、
夫婦間で愛情が行き交う、
円満な新婚生活を送ることができます。

しかし、結婚生活も長く続き、それが当たり前になってくれば、
段々と、相手の長所よりも欠点に目が行くようになります。
最初はちょっと気になる程度で我慢できていたものが、
徐々に不満として積もり積もっていき、いつかは爆発してしまいます。

「男は仕事、女は家事・育児」と考える亭主関白な夫も、
40 歳ともなれば、会社の中でも責任ある**中間管理職**の立場を任され、
チーム一丸となってプロジェクトを推進させるべく、
チームのリーダとして試行錯誤されることでしょう。

「チームのパフォーマンスを向上させるためには、
**　メンバーのモチベーションを上げなければならない（。-`ω-）」**
と、部下の働きをどう評価しようか、どこをどう褒めようか、
セミナーに通うなりして、真摯に対応を考えます。その一方で、

それと同じくらい重労働な家事・育児を毎日こなしている、
家で待つ奥さんに対しては、素っ気ない対応しかしない。そうして、

「家事・育児って誰にでもできる仕事だろ！（-。-)y-゜゜゜」
と軽んじ続けるようなことをしていれば、
「将来的にこの人とは一緒にやっていけない！（; ・`д･´）」
と密かに離婚を決心されても、文句は言えないでしょう…。

（続）

//==========//

●私と仕事、どっちが大事なの！③

「私と仕事、どっちが大事なの！」と、
妻に詰め寄られたとき、夫としてどう答えますか？

「何を言っている、お前が一番大事だよ！」と答えようと、
「はっきり言って、仕事が大事だ！」と素直に答えようと、
どちらを選んでも良い予感はしません。

だからと言って、
「どっちも大事だよ！（*^_^*）」と返せば、
余計に怒りを買ってしまいそうです。…。どうやら、

「私と仕事、どっちが大事なの！」という問いかけに対して、
どちらか一方を選択して回答してはいけないようです。

と言うのも、問うた当の本人は、
どちらかを答えてほしいわけではないからです。つまり、
質問文の選択肢の中に正解はない、ということです。

似たような話に、イソップ寓話の
「金の斧・銀の斧」があります。それは、

//----------

木こりが斧で木を切っていたとき、
手元が狂い、斧がすっぽ抜け、湖に落としてしまいました。
大切な商売道具を失って途方に暮れていた木こりの前に、
突如、湖の神様(を名乗る謎の男)が現れ、以下の質問をします。

「お前が落としたのはこの金の斧か？
**　それともこちらの銀の斧か？」**

//----------

というお話です。ご存知のように、
「金の斧」と答えても「銀の斧」と答えても、
どちらを答えてもバッドエンドです。

問いかけられた選択肢の中に正解はないからです。
文言通りに解釈して対処してはいけないということです。
(つまり頭を使えということです)

同様に、**「私と仕事、どっちが大事なの！」**という問いに対しては、
はたしてどう答えればいいのでしょうか？

（続）

//==========//

●私と仕事、どっちが大事なの！④

「お前が落としたのはこの金の斧か？
**　それともこちらの銀の斧か？」**

この問いかけに対してどちらを答えてもアウトだ、
という話をしました。同様に、

「私と仕事、どっちが大事なの！」という問いかけに対しても、
どちらを答えてもバッドエンドです。ゆえに、

「私」でもない「仕事」でもない、**それ以外の「何か」**を、
何とか見つけ出さなければなりません。この「何か」のことは、
「第３の案」とか「中道」のように表現されたりします。

イソップ寓話の「金の斧・銀の斧」では、第３の案は「古びた斧」でした。
「金の斧」でもない「銀の斧」でもない、「古びた斧」がよりよい道です。
※正直に答えればいいという話ではなく、よりよい道を見つけることが大切です。

話を元に戻しますが、
「私と仕事、どっちが大事なの！」という問いかけの裏には、
「あなた、最近、仕事、仕事で、家庭のことなんて、
　ちっとも考えてくれない。ちょっとは関わってよ！」
という気持ちが背景にあるのかもしれません。だとしたら、

「何を言っているんだ、

　お前が大切だから仕事を頑張っているんじゃないか！（￣д￣）」
と正論を答えたところで、
「あなたっていつもそう、口先だけじゃない！（; ･`д･´）」
と反発されるのがオチです。

なぜならば、この場合の**「よりよい道」**とは、
家事・育児における苦しみを共有することであり、
妻が大切か仕事が大切かを答えることではないからです。

「私と仕事、どっちが大事なの！」と詰め寄られたとき、
「妻」と「仕事」を天秤にかけているようでは、
その人はもうすでに終わっている、ということです。

（続）

//==========//

●私と仕事、どっちが大事なの！⑤

「私と仕事、どっちが大事なの！」と詰め寄られて、
「お前のことを大切に思っているからこそ、
**　仕事してるんだろうが！」**と返してしまえば、
間違いなく人間関係は悪化していきます。

「ならどう答えればいいんだよ！」と
反発したくなるところかもしれませんが、「どう答えるか」よりも、
「そもそもなぜ相手はそんなことを言ってきたのか」
と考えることの方が大事でありましょう。

コミュニケーションとは、「言葉と言葉のやり取り」ではなく、
「心と心のやり取り(心と心の相互作用)」です。

相手の発した「言葉」に反応するのではなく、
相手はなぜそんなことを言ってきたのか、相手は何を気にしているのか、
という**「感情」**や**「思考」**の部分に焦点を当てるべきです。

「私と仕事、どっちが大事なの！」と詰め寄られて、
「どっちも大事だろうが！」と感情的になるのではなく、
「なぜそんなことを言ってくるのだろうか？」と、
相手の「感情」や「思考」を考えることが大切です。

人間関係において、関係を切るか切らないかは、お互いに決定権があり、
どちらか一方が権利を行使してしまうと、そこで人間関係は終了します。
逆に、人間関係を築き育むためには、お互いの努力を必要とし続けます。

「これは、俺の問題じゃないから、俺は一切対応しない。
　お前が対応しろ！」というような態度では、
そのうち人間関係は崩れていってしまう、ということです。

「俺は仕事をして、家族を養ってやっている。
　家のことくらい、お前が責任をもってやったらどうだ！
　俺だって、自分の役割くらい、果たしてるぞ！！」

などと言って、
相手の気持ちを考えることをめんどくさがっていては、
愛も渇いてしまうことでしょう。さて、

私と仕事、どちらが大事なのでしょうか？

（完）

//==========//

Web サイト：

心を力学する　―原理・原則に基づく生き方を考える―

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)